

Fukuoka University MEDICAL SCIENCE NEWS

No. 85

編集・発行
福岡大学医学会
福岡大学医学部内

福岡大学医学会ニュース

福岡大学医学部の 楽しい思い出、 そして期待すること

福岡大学名誉教授 井上 亨



私は2008年4月に第3代目の脳神経外科主任教授として福岡大学に着任しました。当時は、外科系への入局者が激減しており、福岡大学脳神経外科医局も例外ではなく、過去9年間入局者はありませんでした。教授として、医学生に外科医の魅力を伝え、脳神経外科医を志してもらうのが私の大きな使命と考えました。福岡大学医学部には、学際的で自由な雰囲気があり、医学生は伸び伸びと勉学・愛好会活動に励んでいました。彼らにどうしたら外科医の魅力を伝えられるのか、M1,M4では手術動画を用いた分かりやすい講義、BSLでは実際の手術見学、そしてマイクロサージャリー研究室では顕微鏡下血管吻合を実体験してもらいました。また、硬式庭球愛好会顧問を引き受け、一緒にテニスをしたり九山大会に応援に出かけたりと楽しい時間を過ごしました。思いが通じたのか、教室を主宰した14年間に、女性6名を含む54名(新卒35名)が入局してくれました。そして、受験資格のある23名全員が脳神経外科専門医となり、誰1人退局することなく様々な職場で活躍しています。多くの医学生諸君と、教授としてかけがえのない時間を過ごすことができ、福岡大学に感謝の気持ちでいっぱいです。

診療面では、脳卒中・頭部外傷を含む救急医療、脳腫瘍、機能外科など幅広く診療を行いました。これまでの手術顕微鏡下手術に加えて、ナビゲーションシステムを用いた神経内視鏡手術、カテーテルを使用した脳血管内手術(脳動脈瘤コイル塞栓術、ステント留置術etc)を積極的に取り入れ、年間手術例

数は着任時の2008年は411例、2017年には675例と増加しました。ライフワークとして前職の九州医療センター時代から取り組んで来た頸部内頸動脈狭窄症は、2021年に血栓内膜剥離術(CEA)917例、頸動脈ステント留置術(CAS)386例に達し、研究成果を一冊の業績集に纏めることが出来ました。2022年3月8日、私の福大病院での最終手術はCEA、麻酔は秋吉教授、直介を中川看護部長にお願いしました。手術は無事に終了、お二人および関係スタッフに心から感謝しています。

研究面では、大学院生の努力した成果が査読のある英文誌に掲載されることを目的としました。在任中に、医局関係者23名(リハビリスタッフ含む)全員が英論文で医学博士を取得しました。福岡大学着任時は、原著とは言い難い和文での学位審査もありましたが、次第に立派な英論文での審査が増え、随分と大学院生の研究レベルが上がったと嬉しく思っています。今後は、国内・海外留学を積極的に薦めていただき大きな視野で医学・医療を支えていく医師を育てて欲しいと願っています。そして、愛好会活動や各種イベントを積極的に推奨し、人として魅力的な医師が福岡大学から育つことを期待しています。退任後は彼らの活躍する姿を見守るのが私の役目です。

最後に、在職中にお世話になったすべての皆様に心から御礼申し上げると共に、福岡大学医学部医学会のさらなる発展を祈念いたします。14年間本当に有難うございました。

退職にあたって：大学の若い力

福岡大学名誉教授 鍋島 一樹

今年の3月末日をもって福岡大学を定年退職いたしました。19年半にわたって病理部・病理学講座に在職させていただき、その間多くの方々にお世話になりました。こころより御礼申し上げます。

多くの臨床科の先生方とカンファレンスなどで連携を取りながら病理診断・臨床病理学的研究に携わることができました。特に若い大学院生諸氏との研究が最も楽しい思い出です。随分一緒に症例(病理標本)のreviewをしましたが、常に新たな発見が隠れていて、楽しみでした。初めて研究を始める彼らの素朴な疑問も大切に、新たな研究の方向性につながることもありました。ただ方法論や手技・結果の解釈などは勿論妥協しませんので、厳しくもあったかもしれません。

「大学は常に周囲に発信すべき場である」という考えのもと、少しでも病理診断に役立つ所見/手法・予後因子などに取り組んで、大学院生にも国際学会で発表してもらいました。中皮腫の領域で、その一つ(診断法)が国際的なWHO腫瘍分類のbluebookに記載されることになったのは大きな喜びでした。

4月からは徳洲会病院の病理診断センターに勤務してい

ます。地域の第一線病院での病理診断という新たな経験と共に、福岡大学病院から出向して地域医療に大きく貢献し

ている若い医師の姿を間近に見ることもできて嬉しく思っています。FISH (fluorescence in situ hybridization)も導入され、引き続き中皮腫のコンサルト業務も行っています。若い技師が多いのですが、積極的にFISHの手技と解析にも取り組んでくれて、早速これまでの症例のreviewも始まっています。病理診療と共に少しでも彼らの成長の手助けができればと思っています。

大学は常に新たな若い力が入ってくる魅力的な場です。これからも若い芽が伸び伸びと成長し、福岡大学および医学部が益々発展されますことをこころより祈念申し上げます。

最後に若い方々へWinston Churchillの言葉を記して結びとさせていただきます。

“Success is not final, failure is not fatal: It is the courage to continue that counts.”



福岡大学医学会第86回例会および第45回総会

■日時/日時：令和4年9月28日(水) 17:30～19:15 ■場所/医学部講義棟 3F RI 大講堂

1. 第86回福岡大学医学会例会 【進行】集会幹事 川浪 大治

1) 開会の辞 集会幹事 川浪 大治

2) 会長挨拶 医学部長 小玉 正太

3) 第24回福岡大学医学会賞受賞論文講演 (講演15分、質疑応答含む)

① 講演者…漆山 大知(産婦人科)

座長…宮本 新吾

「Vaginal microbiome as a tool for prediction of chorioamnionitis in preterm labor: a pilot study」

② 講演者…山内 涼(消化器内科)

座長…平井 郁仁

「Elobixibat, an ileal bile acid transporter inhibitor, ameliorates non-alcoholic steatohepatitis in mice」

③ 講演者…胡 耀鵬(生理学)

座長…藤田 孝之

「Theoretical Investigation of the Mechanism by which A Gain-of-Function Mutation of the TRPM4 Channel Causes Conduction Block」

4) 第24回福岡大学医学会賞金賞論文投票

5) 新任教授講演 (講演25分、質疑5分)

① 講演者…永光 信一郎(小児科学)

座長…小玉 正太

「ICTと医療・健康・生活情報を活用した

“次世代型子ども医療支援システム”の構築に関する研究」

2. 第45回福岡大学医学会総会

1) 議事 【進行】庶務幹事 鍋島 茂樹

① 報告事項 ② 令和3年度会計報告および令和4年度予算案 ③ その他

2) 第24回福岡大学医学会賞授賞式 【進行】集会幹事 川浪 大治

① 開票結果発表 ② 授賞式

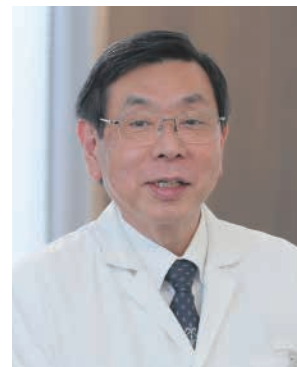
3) 閉会の辞 集会幹事 川浪 大治



講演された先生方と(左から、永光先生、川浪先生、小玉会長、宮本先生、漆山先生、平井先生、山内先生、胡先生、藤田(孝)先生)

23年間お世話になりました

福岡大学名誉教授 塩田 悦仁



平成10年10月に済生会八幡総合病院から筑紫病院へ赴任してまいりましたので、23年6か月の長きにわたり福岡大学にお世話になりました。最初の12年間は筑紫病院の整形外科で、平成22年10月に福岡大学へ異動し、整形外科に半年在籍したあとリハビリテーション(以下リハ)部で11年勤務いたしました。いま振り返ってみると、長いようで短い23年でした。この間、ずっと北九州の実家から車や新幹線・地下鉄を利用して無事に通勤することができました。支えていたすべての方々に心より感謝申し上げます。

リハ部に赴任した当時、療法士は理学療法士(PT) 8名、作業療法士(OT) 5名、言語聴覚士(ST) 2名であり、900床のベッド数に対してマンパワー不足で診療各科から専門的リハの強い要請を受けていました。そこでハートセンター、救命救急センター、脳神経センターの各病棟に療法士を3名ずつ配置し、平成22年4月から脳卒中ケアユニット(SCU)の超急性期リハ、平成23年1月の新診療棟開院とともに心臓リハ、平成23年10月からがんのリハを開始いたしました。現在ではPT 22名、OT 4名、ST 7名、健康運動指導士1名に増員され、各科からの要望に不十分ながらも応えることができるようになりました。

新専門医制度においては、福岡地区の基幹病院となり、長尾病院・誠愛リハビリテーション病院・福岡みらい病院・福岡リハビリテーション病院・福西会南病院・白十字病院・原土井病院・千鳥橋病院の8つの連携・関連施設とともに研修病院群を構築し、2020年から専門研修を開始しております。

研究的なことはまったくできませんでしたが、第16回日仏整形外科学会(SOFJO)と第39回日本リハ医学会九州地方会を主催し、仏語の医学書を8冊翻訳いたしました。

4月からは中央区清川に開設されました百年橋リハビリテーション病院(98床)で院長として勤務しております。今後とも何かとお世話になると思いますが、何卒よろしくご指導・ご支援いただきますようお願い申し上げます。

福岡大学医学部の益々のご発展を祈念いたします。長い間本当にありがとうございました。

祝 第24回福岡大学医学会賞

50音順



漆山 大知
(産婦人科)

Vaginal microbiome as a tool for prediction of chorioamnionitis in preterm labor: a pilot study
Sci Rep 2021; 11(1):18971



胡 耀鵬
(生理学)

Theoretical Investigation of the Mechanism by which A Gain-of-Function Mutation of the TRPM4 Channel Causes Conduction Block
Int J Mol Sci 2021; 22(16):8513-8526



山内 涼
(消化器内科)

Elobixibat, an ileal bile acid transporter inhibitor, ameliorates non-alcoholic steatohepatitis in mice
Hepatol Int 2021; 15(2):392-404

医師国家試験 結果報告

第116回医師国家試験(令和4年2月5～6日実施)に99人が受験し、95人(新卒84人・既卒11人)が合格しました。合格率は94.1%、新卒のみの合格率は97.7%でした。

看護師・保健師 国家試験結果報告

第111回看護師国家試験(令和4年2月13日実施)に100人が受験し、98人(新卒)が合格しました(合格率98.0%)。また18人(新卒)が第108回保健師国家試験(令和4年2月11日実施)を受験し、18人全員合格しています(合格率100%)。

新 風

令和 4 年 4 月 1 日付けで
本学へ赴任、昇格された方に
自己紹介をしていただきました。

new phase



脳神経外科学
教授
安部 洋

この度、2022年4月1日付けで、福岡大学医学部脳神経外科学講座の主任教授を拝命致しました。私は1972年に埼玉県大宮市で生まれ育ち、1991年に福岡大学に入学しました。1997に福岡大学脳神経外科学講座に入局し、多くの関連病院で臨床修練を行いながら脳血管障害、脳腫瘍、機能外科、脊髄脊椎疾患、重症頭部外傷など多岐にわたる疾患に携わってきました。2004年から2年間はフロリダ大学のRhoton教授のもとに留学して微小脳神経外科解剖研究を行い、その研究を基に新たな手術方法の開発や治療困難な症例に対する直達手術に取り組んでおります。近年は血管内手術や内視鏡手術などの低侵襲手術も発達し、治療の確実性や安全性が向上していますが、未だに克服すべき領域が多いのが現状です。脳神経外科疾患は後遺症により健康寿命を短くする大きな要因の1つであり、最善の医療を提供することは我々の大きな使命であります。今後も福岡大学の発展や地域医療の貢献のために精進していく所存です。今後とも御指導の程宜しく願い申し上げます。



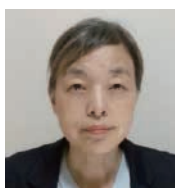
病理学
教授
濱崎 慎

令和4年4月1日付けで、福岡大学医学部病理学講座の主任教授ならびに福岡大学病院病理部診療部長を拝命いたしました。平成9年に福岡大学医学部を卒業し、研究や留学を機に福岡大学医学部病理学講座に入局し、肺腫瘍をはじめとする固形腫瘍を中心に外科病理診断の立場から医療への貢献を目指すこととなりました。病理診断は診療科横断的な知識を必要とし、常に情報のupdateも求められます。病理医のみでは対応困難な場合もあり、臨床医との意思疎通も重要と痛感しています。病理診断に興味をお持ちの先生方にも広く門戸を開放し、十分な意見交換を行いながら、チーム医療の一員として、積極的に診療に取り組んでいきます。病理診断が治療に最大限貢献できるようスタッフ一丸となって尽力いたします。現在、病理医自体は圧倒的に不足しており、その育成が急務とも考えられています。診療・研究・教育を通して、若い世代の方々に病理診断の重要性を知って頂き、病理を目指してくれる医師や医学生が増える様に努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



筑紫病院整形外科
教授
伊崎 輝昌

令和4年4月1日付けで福岡大学筑紫病院整形外科教授を拝命いたしました。私は昭和63年琉球大学卒業と同時に縁あって福岡大学医学部整形外科学教室に入局しました。主な専門領域は、肩関節疾患の病態解明・治療です。超高齢社会を迎えた本邦では、高齢者の四肢脊柱外傷、変形性関節症による関節障害、さらに脊椎脊髄疾患など運動器疾患が増加の一途を辿っています。当科では骨折や脱臼などの外傷性疾患から変形性関節症やスポーツ疾患など幅広い患者を受け入れる体制を整え、一人ひとりの患者さんに寄り添ったエビデンスに基づく最先端の医療を提供したいと考えております。基本理念である「あたたかい医療」を具現化するため、医学部整形外科学教室とも密に連携して、大学病院で行う先端医療はもとより、地域医療支援病院に求められる病診・病病連携や救急医療にもしっかり対応して参ります。また、学部学生教育はもとより、整形外科専攻医にとって有益な先端医療、救急医療や外傷治療などの教育環境を整えて参ります。また、リサーチマインドを涵養し各教官が専門とする臨床研究を促進していきます。今後ともご指導ご鞭撻お力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。



看護学科
教授
中島 充代

令和4年4月1日付けで福岡大学医学部看護学科教授を拝命いたしました。私は国立福岡中央病院附属看護専門学校を卒業後、看護師として勤務し、福岡県立大学、久留米大学大学院修了後、臨床心理士の資格を取得しました。その後、看護師として福岡病院、福岡県立精神医療センター太宰府病院を経て、精神看護学を担当しています。研究面では、九州大学大学院で乳がん患者の治療に係る意思決定をテーマに学位を取得し、現在は精神科訪問看護について取り組んでいます。教育面としては、福岡市医師会での看護専門課程教育から始まり、短期大学、大学での学生教育、臨地実習における教育、臨地実習指導者講習会での教育と幅広く実施してきました。精神の健康に係る課題は複雑かつ多様です。人の健康と福祉に貢献できる看護学教育を目指しています。今後も福岡大学や社会に貢献できるよう努めて参りますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



看護学科
教授
末次 典恵

令和4年4月1日付けで福岡大学医学部看護学科教授を拝命いたしました。私は昭和63年に九州大学医療技術短期大学部を卒業し、九州大学病院の消化器外科、ICU、救急部で10年間の臨床経験を積みしました。その後、九州大学で学位を取得し、教員として九州大学、佐賀大学、宮崎大学に勤務しました。教員歴20年目

の節目となる今年、福岡大学の一員に加えていただき、13年ぶりに福岡に戻ることとなりました。専門は基礎看護学で、看護師のフィジカルアセスメント力の強化・向上につながる看護教材の開発とそれらを用いた効果的な看護教育方法を研究テーマとしております。地域包括ケアの医療政策が進められているなかで、看護職の活動の場は多様化しています。また、コロナ禍によって看護教育においてもデジタル化を導入した教育方法の再構成が求められています。これまで培ってきた臨床経験と教育経験を活かして、学生たちが持つ可能性を引き出し、根拠に基づいて看護を実践できる看護職者、多様化する社会情勢に柔軟に対応できる看護職者の育成を図りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



薬理学
准教授

根本 隆行

この度、岩本隆宏教授のご推挙により、令和4年4月1日付けで福岡大学医学部薬理学准教授を拝命致しました。平成22年に宮崎大学大学院医学系研究科(博士課程)を修了し、その後も、同大学医学部薬理学にて9年間研鑽を積んだのち、平成31年、貴重など縁を賜り現所属講座に赴任してまいりました。担当している薬理学Ⅰ・Ⅱは、“薬物と生体の相互作用を考究する基礎薬理学”と“適正な薬物療法に必要な基礎的・実践的知識を学修する臨床薬理学”の両面にわたる総合的な学問です。実際の授業カリキュラムでは、通常の講義・実習に加えてP-Drug&ロールプレイ演習を実施しています。本演習では、適正な薬物療法に必要な薬理学的知識を把握することと臨床現場におけるその知識の適切な活用の習得を目指しています。研究分野においては、イオン輸送体(トランスポーター)を標的とした研究を行なっています。“特異的阻害薬を用いた薬理学的アプローチ”と“遺伝子改変マウスを用いた分子生物学的アプローチ”を融合した多角的手法により、分子レベルから個体レベルまで統合的に、イオン輸送体の機能的役割および病態学的意義の解明を目指しています。大学院時代より薬理学一筋18年、まだまだ修練の身ではございますが、以後お見知り置きのほど何卒よろしくお願い申し上げます。



脳神経内科学
准教授

藤岡 伸助

この度、坪井義夫教授のご高配により、脳神経内科学講座の准教授を拝命いたしました。私は2003年に福岡大学医学部医学科を卒業し、福岡大学病院で初期研修を受け、その後、東京労災病院、福岡和白病院にて一般臨床に携わりました。2010年4月より米国フロリダ州にあるメイヨークリニックに留学し、遺伝性パーキンソン病および関連疾患の家計調査、病理学的評価、遺伝学的解析を中心とした研究に従事いたしました。2014年より福岡大学脳神経内科学教室に助教として復帰しました。現在は、主に外来医として、神経変性疾患、神経免疫疾患、脳卒中を含めた神経内科領域全般の臨床診療に携わるとともに、医局長として、医局人事を切り盛りしております。その傍ら、パーキンソン病関連疾患における画像解析研究や、パーキンソン病患者に対するリハビリテーション研究を遂行しております。また将来性ある有能な医師を育てるべく、学生教育に力を注いでおります。

福岡大学ならびに関連病院の発展に寄与できますよう努力してまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。



総合周産期母子医療センター
准教授

太田 栄治

永光信一郎教授のご推挙により、2022年4月1日付で福岡大学病院総合周産期母子医療センター新生児部門の准教授を拝命いたしました。私は1996年に福岡大学医学部を卒業し、福岡大学病院小児科に入局しました。1999年にいったん臨床を離れ、福岡大学大学院医学研究科人間生物系専攻に進学し、池原征夫教授のご指導の下でゴルジ装置の基礎研究に携わりました。2003年に福岡大学病院総合周産期母子医療センター新生児部門に戻ってからは、長きにわたって新生児医療に従事して参りました。気がつけば、最初に担当した超低出生体重児の赤ちゃんはすでに成人を迎えております。若い頃は重症な児を救命することばかりに躍起になっておりましたが、経験を重ねるにつれ自然と後遺症なき生存を目指すことが当たり前となっていました。しかし、近年、低出生体重児は生活習慣病や慢性腎臓病、発達障害などの危険因子であることが注目されるようになり、実際に経験する機会も増えてきました。今後はNICUを卒業した赤ちゃんたちの長期的なフォローアップ体制(内科へのトランジションを含めた)を構築することが私の最後の使命と感じています。



整形外科
准教授

前山 彰

2022年4月1日付けで、山本卓明教授の御推挙により、福岡大学整形外科学教室の准教授を拝命いたしました。私は2002年福岡大学を卒業しまして、内藤正俊名誉教授が主宰されておりました整形外科学教室に入局いたしました。福岡大学病院、白十字病院で臨床研修を行った後に、2005年より福岡大学病態機能系大学院にて内藤正俊先生のご指導の下、股関節臼蓋形成不全の研究をさせていただきました。また、2009年より米国ピッツバーグ大学へ留学しまして、膝前十字靱帯損傷の研究をFreddie Fu教授のご指導を受けながら行いました。帰国後は、福岡大学病院に戻りまして膝関節、関節リウマチの診療に携わっております。近年、培養軟骨移植などの再生医療、生物学的製剤・分子標的化合物などの関節リウマチ治療薬の登場などめざましい治療手段の発展が見受けられます。そのような状況にしっかりと独自の研究を進めながら、遅れをとらぬように日々心がけております。福岡大学病院の発展と人材育成に寄与すべく、尽力して参りたいと思います。ご指導賜りますよう宜しくお願いいたします。



筑紫病院呼吸器・乳腺外科
准教授

吉田 康浩

2022年4月1日付で、山下眞一教授のご推挙により、福岡大学筑紫病院呼吸器・乳腺外科准教授を拝命致しました。2001年に福岡大学医学部を卒業後、当時の福岡大学医学部第二外科教室

に入学いたしました。福大病院と筑紫病院で研修医生活を送り、2004年より福岡東医療センターで、呼吸器外科を専門に臨床に携わるようになりました。2008年に福岡大学大学院に進学し、細胞生物学 白澤専二教授のもと、主に大腸癌発生に関連するKRAS遺伝子を中心に、遺伝子研究に勤しみ、学位を取得しました。2011年からは呼吸器・乳腺内分泌・小児外科の一員として、岩崎昭憲教授（現 福岡大学病院総病院長）、白石武史教授、山下眞一教授のご指導の下、呼吸器外科疾患の臨床に従事して参りました。特に2016年には内視鏡手術支援ロボット（da Vinci Xi）の導入に関わらせていただきました。2018年からは福岡大学筑紫病院外科に赴任し、現在に至ります。2019年に山下眞一教授の赴任に際し、呼吸器・乳腺センターが設立され、2021年から呼吸器・乳腺外科として外科から独立いたしました。

筑紫地区は肺癌や乳癌治療を専門に行う医療機関が少なく、需要が高いと感じています。筑紫病院に通われる患者さんに、より安全で確実な治療を提供し、微力ではありますが地域に愛される病院となれるよう努力して参ります。皆さまからの変わらぬご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



筑紫病院感染制御部
准教授

串間 尚子

令和4年4月1日付で福岡大学筑紫病院 感染制御部 准教授を拝命しました。この度の人事に関しましては、所属長 石井 寛教授をはじめ、皆さまからのご支援の賜物と感謝申し上げます。私は平成15年に大分医科大学を卒業し、平成17年から呼吸器内科医として歩んで参りました。その後大学院で医真菌学の研鑽を積み、呼吸器専門医、感染症専門医、医真菌専門医のサブスペシャリティを装備し今に至ります。令和2年度に筑紫病院に赴任した直後から新型コロナウイルスという初めての敵に苦戦し、その渦に飲まれ、混乱と困難が続き、感染症専門医とは名ばかりで役に立っている実感を得られませんでした。そのような中、福岡大学の皆さまのお力添えで令和3年度に筑紫病院の新部署として感染制御部が設置されました。新型コロナウイルス感染症のみならず、抗菌薬適正使用や感染症診療全般に携わるチャンスを与えていただき、多くの場面で伸び伸びと活動しながら現在に至っております。いまだに生涯一研修医の気持ちですが、今回このような役職を仰せつかり責任の重さに身の引き締まる思いです。より一層精進し、微力ながら福岡大学の発展のために尽くして参りますので、お導きのほど宜しくお願い申し上げます。



呼吸器内科
准教授

濱田 直樹

令和4年4月より、藤田昌樹教授のご推挙により福岡大学病院呼吸器内科の准教授を拝命いたしました。平成10年に香川医科大学を卒業し、九州大学医学部胸部疾患研究施設（呼吸器科）に入学し、九州大学病院や関連病院で研修を積みしました。平成13年からは同大学院に進学し、主に肺損傷、肺線維化について研究を行いました。平成17年からは九州大学病院呼吸器科で呼吸器疾患、特に間質性肺炎を中心としたびまん性肺疾患の診療、研究、教育に従事してまいりました。この度、難治性肺疾患の診療で

名高い福岡大学に勤務する機会をいただき大変光栄に存じます。間質性肺炎、肺線維症は、まだまだ難治性で予後不良な疾患ではありますが、近年、新しい薬剤の開発が進んでおり、臨床研究が盛んになってきております。当領域におきまして、先端の医療が提供できるよう微力ながら力を尽くしたいと考えております。未だ慣れずに戸惑うことも多い毎日ですが、今後ともご指導の程何卒よろしくお願い申し上げます。



整形外科
講師

木下 浩一

山本卓明教授のご推挙により、令和4年4月1日付で福岡大学医学部整形外科講師を拝命いたしました。私は平成15年に福岡大学医学部を卒業し整形外科教室に所属、福大病院をはじめ、関連病院で整形外科の基礎を学びました。大学院では前主任教授内藤正俊先生が開発された、発育性股関節形成不全に対する骨盤側骨切り術（Curved periacetabular osteotomy）に関する研究を行うとともに、股関節分野について学びました。平成25年に救命救急センター助教に着任し、骨盤外傷について研鑽を積み機会をいただきました。平成26年に整形外科に異動し、以降、股関節疾患および骨盤外傷を担当しております。

これまで、臨床ならびに大学院生の指導・研究に主な力を注いでまいりましたが、今後は学生教育にも体重移動する所存です。微力ながら医学部・病院の発展に尽力いたします。今後ともご指導を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



産婦人科
講師

漆山 大知

宮本新吾教授のご推挙により、2022年4月より福岡大学病院産婦人科講師を拝命いたしました。2008年福岡大学卒業、福大病院・筑紫病院での初期研修を経て、2010年に産科婦人科学教室に入学しました。

私は学生時代に祖母の死を契機に「生死に直結する科」に興味を持ち、初期研修中に産科の奥深さを知り、入局を決めました。はじめは事象の素晴らしさに感動していましたが、徐々にシビアな症例を多く経験する中で恐怖心とも戦ってきました。現在は未然に防ぐことの重要さに気づき、緊急時も冷静に判断して瞬時に身体が動くようになってからは恐怖心も無くなりました。産科は、昨今の社会背景から一層リスクが高まっていますが、かけがえのない2つの命を扱う、魅力とやりがいに溢れた診療科だと思います。今後も「福岡市の妊産婦全員の最後の砦」という自覚を持って、診療と後輩育成に従事したいと思っています。

研究では、2013年より国立成育医療研究センター研究所の周産期病態研究部に2年半ほど国内留学し、先駆けて「周産期領域のマイクロバイーム研究」を始めました。2017年以降は継続的に論文報告でき、複数の賞や研究助成金を頂き、特定臨床研究を実施できていることは、偏に福岡大学という恵まれた環境の賜物と感謝しています。

6年生担任として班員の国試合格も重要任務です。臨床・研究・教育いずれでも重責を担わせて頂き、一層身の引き締まる想いです。皆様からのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



循環器内科
講師

加藤 悠太

令和4年4月より三浦伸一郎教授の御推挙により、福岡大学病院循環器内科の講師を拝命致しました。私は平成22年に福岡大学を卒業し、初期研修終了後に福岡大学医学部心臓・血管内科学に入局しました。その後福岡大学病院、済生会福岡総合病院で冠動脈インターベンションを中心に臨床経験を積みました。平成29年には三浦教授の御指導のもと、冠動脈イメージングに関する臨床研究で学位を取得することが出来ました。大学院卒業後からは国立循環器病研究センターで弁膜症に対するカテーテル治療（ストラクチャー）で研鑽を積み、平成31年に福岡大学病院に戻って参りました。福岡大学病院のハイブリッド手術室開室に携わり、令和3年には同室で経カテーテル的大動脈弁留置術を開始しました。現在、冠動脈疾患・弁膜症を中心に診療に従事しています。若輩者ではございますが、今後とも御指導御鞭撻のほど宜しくお願い致します。



臨床検査部
講師

高田 耕平

小川正浩教授のご推挙により、2022年4月1日付で福岡大学病院臨床検査部講師を拝命致しました。私は2008年に順天堂大学を卒業し、初期研修修了後に福岡大学医学部心臓・血管内科学に入局しました。入局後は当院や福岡大学筑紫病院、新行橋病院での臨床経験を積み、大学院で高比重リポ蛋白（HDL）に関する基礎研究を行い、学位を取得致しました。HDL機能の研究が契機となり、South Australian Health and Medical Research Institute（SAHMRI、オーストラリアのアデレード）のStephen J. Nicholls先生（現在はメルボルンMonash Heart Centre）のラボに留学する機会を頂きました。約3年半の留学中に、HDL機能の観点から冠動脈疾患だけではなく、先住民であるアボリジニーの研究にも従事する機会を得ることができました。

帰国後は臨床検査部と循環器内科の兼務となり、臨床業務と並行しながら、これまで行ってきた脂質代謝のみならず、様々な先生方のご指導の下で動脈硬化性心疾患発症予防の観点から臨床研究を行わせて頂いております。これからは患者さんとの接点を常に意識した研究を展開しながら、学ばせて頂きたいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



小児科
講師

藤田 貴子

令和4年4月1日付けで永光信一郎教授の御推挙により、福岡大学病院小児科講師を拝命致しました。私は平成11年に福岡大学医学部を卒業し、小児科に入局致しました。大学病院、市中病院、短期間ですが福岡大学病院救命救急センターでの修練を積み、平成17年より2年間九州大学大学院医学研究院臨床神経生理学教室にて神経電気生理の研究をさせて頂きました。臨床で

は数多くの尊敬する先生方のご指導のもと、小児神経学を学ばせて頂き、てんかん、脳炎・脳症、神経発達症などの小児神経疾患を中心に診療に携わって参りました。また平成26年に福岡大学病院が福岡市の児童虐待防止医療ネットワーク事業の拠点病院に指定されてからは、児童虐待に関する診療、他機関との連携、教育活動を行っております。

福岡大学小児科のクレド「その子どもの幸せのために」のもと、これからも尽力して参りたいと思いますので、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



筑紫病院整形外科
講師

坂本 哲哉

2022年4月より、山本卓明教授のご推挙により、福岡大学筑紫病院整形外科講師を拝命いたしました坂本哲哉と申します。私は、2006年に琉球大学医学部を卒業後、初期臨床研修後に2008年に福岡大学整形外科に入局しました。関連病院に勤務した後、2015年に福岡大学大学院医学研究科病態機能系専攻博士課程を修了し、Surgical & Orthopaedic Research Laboratories（UNSW）に留学いたしました。帰国後は、福岡大学救命センターを経て、山本教授の下で福岡大学整形外科の股関節・小児グループに勤務し、今回筑紫病院に移動して現在に至ります。入局後より、外傷一般の診療に従事した後、大学院では股関節分野で、臼蓋形成不全を中心に研究をしてまいりました。股関節グループでは人工関節に手術支援ツールであるNavigationを用いて治療にあたり、また臼蓋形成不全における骨切り術も行っていました。今後もNavigationを用いた人工関節の精度の向上と、骨切り術を中心に診療に従事し、筑紫地区の医療に貢献できるように努力して参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



筑紫病院耳鼻いんこう科
講師

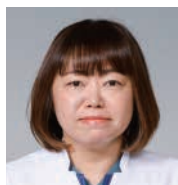
三橋 泰仁

この度、坂田俊文教授の御推挙により2022年4月より福岡大学筑紫病院耳鼻いんこう科講師を拝命致しました三橋泰仁（みはし やすひと）と申します。私は2010年に福岡大学を卒業し、2012年に福岡大学耳鼻咽喉科学教室に入局致しました。入局後は福岡大学、九州がんセンターで研修し、2014年より大学院（福岡大学病理学講座）に進み竹下盛重教授にご指導賜り成人T細胞白血病/リンパ腫の研究を行いました。2018年から福岡大学耳鼻咽喉科に戻り、福岡徳洲会病院を経て、2021年10月より筑紫病院に異動し現在に至ります。

耳鼻咽喉科は、耳・鼻・咽喉・頸部と空間的に非常に狭い領域ですが、その機能は聴覚、嗅覚、味覚、平衡覚、呼吸、嚥下、発声などQOLに深く関わる領域です。その中でも私の専門は鼻副鼻腔領域の内視鏡手術（ESS）で、大学院時代に研究の傍らESSで御高名な御厨剛史先生（古賀病院21）の所に通い御指導いただきました。

現在ESSは副鼻腔に留まらず、副鼻腔を越えた眼窩内や視神経、頭蓋底まで鼻内よりアプローチが可能となっております。これからもESSの技術を磨き、若手の育成に努め、地域医療に貢献出来

たらと思います。未熟ではありますが、今後ともご指導・鞭撻の程
よろしく願いいたします。



西新病院循環器
(心臓血管・リズムセンター)
講師
井上 寛子

2022年4月より三浦伸一郎教授の御推挙により福岡大学西新
病院の講師を拝命致しました井上寛子と申します。私は2005
年に金沢医科大学を卒業し、国立病院機構 九州医療センターの
初期臨床研修を修了後、循環器疾患・内科救急疾患をメインに
2017年12月まで同院の循環器医として修練を積みしました。その後
福岡市医師会成人病センターでの勤務を経て、2018年4月から医
療事業譲渡により名称を変えた福岡大学西新病院に所属しており
ます。この数年で福岡大学心臓血管内科学への入局や論文博士
号取得等の様々な経験をさせて頂き、当院の病院長でもある三浦
教授、西川副院長をはじめとした循環器内科のスタッフ、他科のス
タッフやコメディカルの支えもあり、忙しいけれども充実した毎日
を送っています。

高齢化に伴い入院加療の必要な症例は増えていく中、コロナ
禍で思うような治療が難しいことを多く経験しますが、当院が誇る
チームワークを発揮し、福岡大学病院との連携を深め、地域の先生
方、患者様のご期待に応えられるよう努力して参る所存です。至ら
ない点もあるかとは存じますが今後ともご指導・ご鞭撻の程宜しく
お願い致します。



看護学科
講師
藤木 久美子

令和4年4月より福岡大学医学部看護学科 発達看護分野母性
看護学の講師として着任いたしました。私は、九州大学医療
技術短期大学部看護学科ならびに専攻科助産学特別専攻を修了

後、臨床で12年間助産師として勤務いたしました。勤めていた病
院の産科病棟閉鎖を機に退職し、その後は産業医科大学、国際医
療福祉大学大学院で看護学教育、助産学教育に携わってまいりま
した。あらゆる健康段階にある対象の状況を総合的にアセスメント
し、健康の維持・促進に向け主体的に看護を実践できる人材の育
成に尽力いたします。また、女性の生き方が多様化し、政府も女性
活躍推進法を施行し社会における女性の活躍を推進する一方、晩
婚化、少子化が問題となっています。女性がキャリアをあきらめるこ
となく安心して子育てできる社会の実現に向けて研究を行い、社
会に貢献していきたいと考えております。教育、研究において経験
豊富な教授・准教授の先生方の背中から学び、教員としての教育
力向上に努め、自己研鑽し続けていく所存です。また、福岡大学医
学部的发展に微力ながら尽力いたします。今後とも皆様のご指導
ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



消化器外科
講師
内藤 滋俊

令和4年4月1日より長谷川傑教授のご推挙により、福岡大学病
院消化器外科講師を拝命致しました。私は、平成18年(2006
年)に久留米大学を卒業後、東京の順天堂大学付属順天堂医院
にて研修し、その後同病院肝胆膵外科学講座に入局し、外科医と
しての修練を積んで参りました。帰福を検討した際に、長谷川教授
のご厚意を頂き平成29年(2017)年7月より福岡大学病院消化器
外科に入局させていただきました。消化器外科、特に肝胆膵外科の
診療を主としており、現在、日本肝胆膵外科学会の高度技能認定
医取得に向け修練を重ねているところです。この領域は疾患だけで
はなく、適応となる術式も多彩であり、症例一つ一つに対して適切
な術式の検討が必要で、安全な治療を提供できるよう日々研鑽を重
ねています。大学院では、肝細胞癌の背景ウイルス別の再発様式
の解析を行い、博士号を取得しました。最近では、現在問題となっ
ている超高齢者社会に対応できるよう、高齢者の肝胆膵治療の影
響などを中心に臨床研究を行っています。未熟者ではありますが、
今後ともご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

学位取得 次の方は、福岡大学より博士(医学)を授与されました。

課程修了による学位取得者 [令和4年3月17日付け]

- | | | |
|----------------|-----------------|------------------|
| ・小倉 玄睦(病態構造系) | ・木下 栄(病態機能系) | ・岡田 浩樹(先端医療科学系) |
| ・武田 輝之(病態構造系) | ・鈴木 正弘(病態機能系) | ・川平 悠人(先端医療科学系) |
| ・弟子丸 真実(病態構造系) | ・長友 雅也(病態機能系) | ・田中 敬太(先端医療科学系) |
| ・王 子堯(病態構造系) | ・多田 和弘(社会医学系) | ・月橋 洋平(先端医療科学系) |
| ・平野 昭和(病態構造系) | ・藤居 貴子(社会医学系) | ・平野 優果(先端医療科学系) |
| ・堀尾 欣伸(病態構造系) | ・舩越 駿介(社会医学系) | ・峯崎 みどり(先端医療科学系) |
| ・馬込 和功(病態構造系) | ・薦野 晃(先端医療科学系) | ・棟近 太郎(先端医療科学系) |
| ・新城 安原(病態機能系) | ・井槌 大介(先端医療科学系) | ・吉川 賢一(先端医療科学系) |

教室だより
Letter from a classroom



脳神経内科学

脳神経内科は「内科・健康管理学」「内科学第五」「神経内科・健康管理学」等の変遷があり2019年に単科の「脳神経内科学」教室が誕生して現在に至っております。

当教室は社会に貢献できる、そして日本のどこでも通用する臨床力を備えた脳神経内科医の育成を第一の理念とします。これまで地域における脳神経内科診療の要としての役割を担うべく、地域医療連携、院内の多職種連携に力を入れてきました。2015年には福岡市の認知症疾患医療センターの指定を受け、2018年には福岡パーキンソン病診療センターを立ち上げ、院内の多職種連携チームと周辺医療機関との連携を目的に活動を始めました。2020年からは2つの寄付講座である多職種連携講座、遠隔診療研究講座を開設し、これから医療におけるunmet needsとしての進行期パーキンソン病患者の多職種ケアと遠隔診療（オンライン診療）の拡充を目的としています。当教室で福岡大学病院初のオンライン診療を導入しました。パーキンソン病に特化したものとしては順天堂に続き全国2施設目となります。

脳神経内科の扱う疾患は脳卒中、認知症、パーキンソン病、てんかん、頭痛などが主ですが、もう一つ神経難病があります。遺伝性パーキンソン病関連疾患であるPerry病に関しては日本初の家系報告を行い、その後の新たな家系の

発掘、原因遺伝子の発見、特徴的な病理所見の報告、国際診断基準の作成すべてにおいて関わってきた業績を残し、当教室が世界をリードした分野です。現在はこの分子機構の解明に全力を投じています。この疾患は稀である一方、遺伝性でない孤発性疾患の病態解明にも通じる可能性のある疾患でもあります。難病克服の願いを込めて今後も治療薬開発に向けた研究を進めています。

このような難病研究もその一歩目は目の前にいる一人の患者さんを詳細に診ることから始まります。日々の臨床が我々の教師です。私がこの教室を率いて10年が経ちますがこの間、地域連携は拡充し、診断、治療に難渋する神経疾患を多くご紹介いただいております。このような貴重な機会をいただき、そこで得た経験や知識は、確実に当教室の財産となっております。臨床的疑問が解決された時、その喜びをみなと共有できるのが当教室です。沖中重雄先生の「書かれた医学は過去の医学であり、目前に悩む患者の中に明日の医学の教科書の中身がある」の言葉を常に心に抱き、実践したいと考えております。教室のモットーは共に学び楽しく成長することです。これからも個人の成長と教室および福岡大学医学部の発展のために、教室員一同は気持ちを一つにして歩みたいと思います。



教室だより
Letter from a classroom

形成外科学

形成外科学講座は、1990年に発足した整形外科内形成外科診療班を嚆矢とし、2007年に開講されました。その黎明期より30余年の長きにわたり教室を先導してこられた大慈弥裕之先生が御退職され、2021年10月から2代目教授としてこの高木誠司が教室を主宰させて頂いております。私自身、福岡大学に赴任し13年になりますが、また新たな立場にたつてこの教室の発展と医学部への貢献に努めていかねば、と気持ちをひきしめているところです。

診療においては、当科は福岡市における形成外科診療の先駆けということもあり、その疾患種別は、小児先天異常、軽微な体表外傷から多発顔面骨折・重度四肢外傷に至るまで外傷全般、癌切除に伴う各種再建、褥瘡や足の慢性潰瘍、抗加齢医療等々と非常に幅広いものとなっています。漏斗胸、頭蓋縫合早期癒合症、唇顎口蓋裂、自家組織を用いた乳房再建、眼瞼下垂は、特に力を入れている分野であり、臨床研究にも取り組んでいます。創傷治癒をテーマとした基礎研究も行っています。形成診療ではその多くの場面で他科の先生方との連携が欠かせませんが、いつも大変によくして頂いており、この場をお借りして感謝申し上げます。症例の多彩さに加えて関連病院も徐々に増えており、それも含めて形成外科医育成のための医育機関としては非常に魅力的な環境だと自負しています。実際、国公立・私立を問わず様々な大学を出たやる気に満ちた医師が数多く集ってきてくれており、とても活気に溢れた教室となっています。

教育面において、そのような若手たちに常日頃求めていることは、医師たる前にまずは良き社会人であることです。主なところでは、日々の気づきと周囲への気遣い、時間に正確、TPO

に応じたマナーといったところでしょうか。そのうえで、とにかく形成外科学を好きになってもらうこと、そして自らの知識と技術の向上を実感し、形成外科の道を選んでよかったと思ってもらえることが、なによりの目標です。

ご存じの通り、形成外科は体表面を広く扱う診療科です。治療のBefore&Afterについては、臨床写真が何よりも多くを物語ってくれます。卒前教育の座学においては、なるべく写真を多く取り入れて、視覚的にわかりやすい講義を心掛けています。また臨床修練では、積極的に術野に入ってもらい、指導下に皮膚縫合を体験する機会を持つ。そのような体験重視の実習を目指しています。

講座ができてまだ15年。様々な面で未熟さと力不足は否めませんし、まだまだ駆け出しで成長途上です。少しでも早く知識・技術・人間性を兼ね備えた形成外科医プロフェッショナル集団となるべく、教室員一同、努力をしてみたいと思います。



長い間ありがとうございました

令和4年3月1日～令和4年9月30日までに退職された方

- 鍋島 一樹 教授 (病理学)
- 井上 亨 教授 (脳神経外科学)
- 塩田 悦仁 教授 (臨床医学研究センター)
- 上原 清子 准教授 (細胞生物学)
- 田頭 秀章 准教授 (薬理学)
- 竹山 康章 准教授 (医学教育推進講座)
- 田邊 真紀人 准教授 (内分泌・糖尿病内科)
- 緒方 利安 准教授 (脳神経内科)
- 小池 城司 准教授 (西新病院内科<総合・健診>)
- 原 健二 講師 (法医学)

- 原田 泰志 講師 (呼吸器内科)
- 西尾 淳 講師 (整形外科)
- 宮原 大輔 講師 (産婦人科)
- 秋吉 祐一郎 講師 (筑紫病院整形外科)
- 以上、3月31日付け
- 深川 怜史 講師 (産婦人科)
- 以上、5月31日付け
- 野中 将 准教授 (脳神経外科)
- 大津 健聖 講師 (筑紫病院消化器内科)
- 以上、9月30日付け